

2024 年度 事業報告

社会福祉法人 パプテスト心身障害児（者）を守る会
理事長 宮崎信義

2024 年度の事業開始に当たって、年間主題として「医療・療育・福祉の向上と合わせ、事業収支の健全化を目指す」、及び開園祭テーマとして「重症児（者）と共に継続可能な施設と社会の実現」を提案致しました。この主旨は理事会・評議員会・運営協議会に諮り承認を頂きました。事前にセンターの管理会議でも協議して頂きました。「事業収支の健全化」や「継続可能性」に重点を置きましたのは、2017 年度の決算でこれまでなかった赤字決算が明らかになったからです。新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延の影響も確かにありましたが、諸教会やパプテストコロニー友の会（現・「ミットレーベンネットワーク」）の支援（献金及びボランティア活動）を頂き、更には熱い篤志家の方の献金に支えられてきたもので、全国の重症心身障害施設（自治体補助がある施設を除いて）でも例がない健全経営が維持されてきました。

支援は「全て重症心身障害児（者）に捧げます」とお礼状にも記して参りましたが、真に「重症児（者）と共に在る」福祉共同体と言えるのかと問い、その理念に回帰する必要を強く迫られました。具体的な施策として「財政健全化プロジェクト」が立ちあげられ、2024 年度からは、管理会議と同様に毎月開催される「経営会議」として実現しています。これまでの歩みから事務局長の労を多としたいと思います。

施設内の協議機関として、事業継続計画（BCP）実行委員会が定期的にかかれていています。その発端は、行政から 2024 年 3 月までの事業継続計画（BCP）策定が義務化されたことでもあります。この行政指導を肯定的に活用したいと願ったからでもあります。の事業体でも活用されている持続可能な開発目標（SDGs ; Sustainable Development Goals）の視点も視野に置きたい。事業の継続は安定した事業運営や収支の均衡・原価意識が重要です。

また近年は毎日のように報道される戦争や大規模災害、感染症の蔓延など「危機の時代」とも思われます。いずれも人為の影を感じざるを得ません。2022 年 2 月 24 日のロシアによるウクライナに軍事侵攻、2023 年 2 月 6 日にはトルコ・シリア大地震が発生し 1 ヶ月で 5 万 1000 人以上が死亡するという痛ましい災害、2023 年 10 月 7 日のイスラム組織「ハマス」のイスラエル侵攻に始まるガザ地区の紛争により双方で 5 万人を超える方が犠牲になりました。感染症の蔓延や大規模災害も、人類による乱開発と無縁とは言えません。

暗い世相が報じられても、私たちは設立理念を想起致します。久山療育園の設立理念は、①設立の目的として、「重症心身障害児に愛の手を」という精神で設立した。重症児が社会の片隅に收容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う。従って、久山療育園は単なる收容施設ではなく、新しい福祉社会づくりの拠点である。②運営基本方針として、この働きは、社会のただ中で障害児と共に生きようとするイエス・キリストの愛の証しである。従って久山療育園はキリストの福音を土台として運営されなければならない。③療育基本方針として、久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的ではなく、全人的にとらえる。そのために、それぞれ最善の職協的協力を進めることによって、その専門的領域の働きを全うしなければならない。

創立理念を思い返すと、「重症心身障害児（者）と共に」在る活動は、「平和を作り出す」働きでもあり、私達は、1976 年に久山療育園重症児者医療療育センターが創立され 49 年目を迎えています。